

令和5年1月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和5年1月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

さて、市では、昨年12月に令和4年の10大ニュースを発表しました。

《令和4年 八戸市10大ニュース》

1. 三春屋閉店 52年の歴史に幕 (4月)
2. チーノ閉館 中心街再生へ「第一歩」(9月)
3. 八戸市総合健診センター等 田向に移転 1月4日供用開始 (1月)
4. 八戸三社大祭代替イベント 勇壮山車 3年ぶり運行 (7月)
5. 新型コロナウイルス感染拡大 最大614名感染 (7月)
6. 羽生結弦さん フラット八戸で総合演出・単独出演のアイスショー開催 (12月)
7. 蕪島 国天然記念物指定100周年 蕪島保全へ決意新た (3月)
8. 新幹線八戸開業20周年 記念行事「郷土芸能パレード」開催 (12月)
9. JR 八戸駅新幹線ホームの発車メロディが「八戸小唄」に (12月)
10. 八戸圏域地域連携カード「ハチカ」サービス開始 (2月)

令和4年は、4月に三春屋が閉店し、9月にチーノが閉館するなど、中心街への影響に関連したニュースに注目が集まった1年でしたが、八戸三社大祭代替イベントの3年ぶりの開催や、新幹線八戸駅開業20周年イベントなど、明るいニュースもありました。

今年は、新型コロナウイルスの感染状況が改善され、社会全体が活気を取り戻し、明るいニュースがさらに増えることを願っております。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 1月号 レポート

令和4年12月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	はちのへ観光案内所オープン
(2)	八戸市デジタル推進計画 原案公表 3目標、11施策、83事業
(3)	八戸港の脱炭素化推進 計画策定へ協議会設立
(4)	葦毛崎展望台の改修完了 八戸市、破損の壁面補強
(5)	中心街に関する市民アンケート 結果公表
(6)	本八戸駅前バイパス開通 沼館地区と中心街が直結

【産業】

記事	概要
(7)	三陸沿岸道路 全線開通1年 物流、観光に効果
(8)	川崎近海汽船（東京） 八苫航路 2023年に50周年
(9)	八戸圏域MaaS 実証事業開始 日帰りバスパックのデジタルチケット販売
(10)	産学官金連携で新ビジネス創出 八戸で初回セミナー開催
(11)	八戸港 マダラ異例の豊漁 定置網で14トン水揚げ

【地域】

記事	概要
(12)	新幹線八戸開業20年イベント 駅周辺にぎわい
(13)	八戸市民病院 野田頭医師 臓器移植で厚生労働大臣感謝状
(14)	新横浜ラーメン博物館で「八戸麺道大陸」の「八戸支那そば」が復活
(15)	八戸市出身の元・消防士 山本大樹さん ペット防災普及へ奔走

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	羽生結弦さん アイスショー八戸公演 羽生ファン全国から
(17)	呉さん（八戸出身）の「爆弾」2冠、ミステリー小説 2ランキング
(18)	令和4年度八戸市フィギュアスケート教室 小学生、滑りの基礎学ぶ
(19)	全日本IH 東北フリーブレイズ 5年ぶり頂点
(20)	YSアリーナ八戸 全日本スピード開催

【行政】

記事	概要
(1)	<p>はちのへ観光案内所オープン</p> <p>「はちのへ観光案内所」が八戸駅の新幹線改札口正面にオープンした。駅ビル内にあった「はちのへ総合観光プラザ」を移転させ、観光案内機能に特化。駅の東西自由通路に面した場所には、100インチの大型デジタルサイネージを設置し、八戸圏域の観光PR映像を放映し、観光客に地域の魅力を発信している。案内所には、訪日客向けに、英語対応可能な職員が常駐するほか、中国語や韓国語でも案内する。</p>
(2)	<p>八戸市デジタル推進計画 原案公表 3目標、11施策、83事業</p> <p>八戸市は12月5日、「市デジタル推進計画」（2023～25年度）の原案を公表した。市民サービス、行政事務、地域社会のデジタル化に関する三つの基本目標を設定。全11施策と、それに基づく計83事業を盛り込んだ。推進する施策は、行政手続きのオンライン化、医療・健康・子育て分野のデジタル化など。主な事業に、市民サービス分野で高齢者向けのデジタルサービス活用支援、行政事務分野で押印廃止など行政手続きの見直し、地域社会分野でIT産業集積促進など掲げた。行政サービスを統合した独自のスマートフォン用アプリの開発といった事業を進め「市民が暮らしやすさを実感できる社会の形成」を目指す。</p>
(3)	<p>八戸港の脱炭素化推進 計画策定へ協議会設立</p> <p>多種多様な産業が集積する八戸市の港湾部で、二酸化炭素の排出量を抑制する脱炭素化を目指し、企業や教育専門機関などでつくる協議会が12月13日、発足した。新技術の導入などの取り組みを強化し、温室効果ガスの排出に配慮した港「カーボンニュートラルポート」（CNP）の形成を図る。青森県内の港湾での取り組みは八戸港が初めて。協議会は、17の企業・機関で構成され、国や県、八戸市がオブザーバーを務める。今後、関係団体へのアンケートやヒアリングなどを実施し、具体的な削減目標を設定した計画を2023年12月までに策定する。</p>
(4)	<p>葦毛崎展望台の改修完了 八戸市、破損の壁面補強</p> <p>八戸市が種差海岸にある葦毛崎展望台で進めていた改修工事が完了した。これまで石段の補修などはあったが、大規模な改修工事は初めて。破損が見られた壁面をコンクリートやモルタルなどで補強し、転落防止柵の外側に張り出している床板部も一部撤去した。仕上げでは自然景観に調和した「擬岩パネル」を施すなど、長期的な活用を見据えて、安全な環境を整えた。三陸復興国立公園内の観光資源として魅力を発信する。</p>
(5)	<p>中心街に関する市民アンケート 結果公表</p> <p>八戸市は、中心市街地に関する市民アンケートの結果を公表した。アンケートは中心街居住者370人、市政モニター104人が回答した。食料品売り場が人気だった老舗百貨店・三春屋が昨年4月に閉店した影響を受け、中心街の居住者からはスーパーの新規出店を求める意見が多かった。今後、中心市街地のまちづくりとして取り組むべき項目については、「居住者の満足度を高める取り組み」「多様な学び、活動、交流の機会を通じた人づくり」などが多かった。アンケート結果は、市ホームページに掲載。本年度策定する「中心市街のまちづくりに関するビジョン」や、来年度に策定予定の「第4期市中心市街地活性化基本計画」などに反映させる。</p>

(6)	本八戸駅前バイパス開通 沼館地区と中心街が直結
	八戸市内丸地区のJR 本八戸駅周辺で、青森県が整備を進めてきた「都市計画道路3・5・1 沼館三日町線」は12月25日、付け替え道路（バイパス）が供用開始した。開通したのは、駅東側の交差点から霽神社周辺までの約240メートルのバイパス。片側1車線の幅員15メートルで、東側ののり面には、歩行者通路や休憩スペースを備えた空間「駅通り小径（こみち）公園」も整備。駅周辺ではこれまで渋滞が頻発していたが、開通によって車の流れが円滑になることが見込まれる。今後、県から市に移管される現行の「本八戸駅前通り」は歩行者優先のコミュニティ道路に整備される方針。

【産業】

記事	概要
(7)	三陸沿岸道路 全線開通1年 物流、観光に効果
	八戸ー仙台間359キロを結ぶ「三陸沿岸道路」が、全線開通から1年を迎えた。東日本大震災の復興道路として整備され、地域間の移動時間短縮、物流の円滑化などの多くのプラス効果を創出している。フェリー航路を利用した仙台市から札幌市への輸送では、昨今の燃油高騰の影響を受け、有料の東北自動車道を回避し三陸道を利用する事業者も増加。「青森ー函館」ではなく「八戸ー苫小牧」航路を選択する要因になっており、八戸航路にも好影響をもたらしている。ただ、現状では片側一車線で渋滞が発生しやすいなどの課題があり、利用者目線に立った利便性の向上が求められている。
(8)	川崎近海汽船（東京） 八戸航路 2023年に50周年
	八戸ー苫小牧間でシルバーフェリーを運航する川崎近海汽船（東京）は、2023年4月に同航路開設から50年を迎える。同航路は、1973年4月に開設。1日4往復の運航で北海道と本州を結ぶ物流の大動脈として定着している。同社久下社長によると、新型コロナウイルスの影響で減少した乗客は回復傾向にあるが、なかなか拡大前の状況に戻らないとしつつも、巣ごもり需要の高まりによる宅配利用の増加でトラック貨物の輸送は好調と説明。今年はこれまでの記録を抜く貨物量だったという。欠航率が極めて低い航路の特徴もあり、関係業者から多くの支持を得ているのも大きな強みとなっている。
(9)	八戸圏域MaaS 実証事業開始 日帰りバスパックのデジタルチケット販売
	八戸圏域地域公共交通活性化協議会と「南部バス」を運行する岩手県北自動車傘下に置く「みちのりホールディングス」（東京）は12月23日、交通機関の検索やチケットの販売、発券、運賃決済などを一括で行う「MaaS（マース）」の実証事業を行う。圏域で利用できる日帰りバスパックのデジタルチケットを販売する。デジタルチケットは八戸市営バスと南部バスの路線バスが1～2日間乗り放題になる周遊券と、圏域各施設のクーポン券がセットになった「八戸圏域わくわく1DayPass」が税込み1600円（2日用は同2200円）で販売される。
(10)	産学官金連携で新ビジネス創出 八戸で初回セミナー開催
	青森県は12月22日、産学官金連携で新たなビジネスや新商品の企画立案に取り組む「おもむき共創ビジネスプログラム」のキックオフセミナーを八戸市美術館で開催した。有識者の講演や事例発表を通し、県内企業の関係者らが新事業の創出に向けたヒントを探った。事例発表では、八戸を拠点に飲食店を展開する「金剛グループ」が、冷凍グルメの開発を説明。東京都心の八戸都市圏交流プラザ「8ベース（エイトベース）」を舞台に、八戸学院大と連携したプロジェクトを紹介するなどした。プログラムは県の本年度事業で、八戸学院大が知見を提供。参加企業を募集して1～2月に全3回のワークショップを開催する。

(11)	八戸港 マダラ異例の豊漁 定置網で14トン水揚げ
	八戸港に、12月24日、八戸近海で操業する定置網船5隻が、マダラ計約14トンの水揚げした。マダラは北国を代表する底魚。八戸港では12月以降、沖合で操業する中型底引き網（トロール）船での漁獲が中心で、定置網で一度にこれほどの数量が揚がるのは珍しいという。入札の結果、10キロ当たり4千～3600円の値が付いた。市場関係者によると、金額は順当という。主力のサケが不漁のままなので漁業者は異例の水揚げを歓迎する。

【地域】

記事	概要
(12)	新幹線八戸開業20年イベント 駅周辺にぎわい
	東北新幹線八戸開業20周年を記念して、八戸駅周辺では12月3、4日の両日、式典やパレードなど多彩なイベントが繰り広げられた。開業当時に運行されたE2系車両「はやて」が団体専用臨時列車として特別運行されたり、式典には一日駅長を務めたタレントの王林さんも登場。新幹線ホームでは1日より発車メロディーに「八戸小唄」が採用され、八戸ならではの雰囲気も味わえるようになった。また、駅西口と「フラット八戸」を結ぶシンボルロードでは、地元を代表する八戸三社大祭と八戸えんぶりが初共演し、駅西地区を祭り一色に染めた。イベントには、大勢の地域住民や観光客が詰めかけ、一帯は大きなにぎわいを見せた。
(13)	八戸市民病院 野田頭医師 臓器移植で厚生労働大臣感謝状
	八戸市立市民病院救命救急センター長の野田頭達也医師が、臓器移植対策の推進に貢献した個人や団体に贈られる厚生労働大臣感謝状を受けた。同病院は、日本臓器移植ネットワークが実施する臓器提供連携体制構築事業に参加。青森県立中央病院や八戸赤十字病院と連携し、臓器提供の経験が少ない病院に脳死判定などのプロセスについて助言したり、経験豊富な職員を派遣するなどしている。受賞は、近隣病院と連携し、臓器提供体制の構築に取り組んでいることなどが評価された。
(14)	新横浜ラーメン博物館で「八戸麺道大陸」の「八戸支那そば」が復活
	横浜市の新横浜ラーメン博物館は、2009年に閉店した八戸市のラーメン店「八戸麺道大陸」が手がけ、人気を集めた「八戸支那そば」を期間限定で提供した。八戸支那そばは、博物館が2000年代に取り組んだ「新ご当地ラーメン創生計画」の一環として、有名ラーメン店の協力を得て誕生。02年から約1年間にわたり館内で出店した際は、連日長蛇の列ができるほど好評だった。翌年には八戸でもオープンしたが6年ほどで惜しまれつつ閉店。今回は、博物館の「あの銘店をもう一度」のプロジェクトで復活が決定した。
(15)	八戸市出身の元・消防士 山本大樹さん ペット防災普及へ奔走
	八戸出身の元消防士・山本大樹さん（東京都在住）は、心肺停止状態の犬や猫に対する一次救命処置法の普及に努めている。これまでに、人とペットの防災に関して研究する「日本ペットBLS防災学会」（東京）を設立したほか、救命処置に関する資格認証制度も創設。ペットの心肺蘇生法を広める必要があると感じたのは、かつて離島の防災について研究していた際、避難時の困りごととして、ペットに関する問題を上げる人が多いことに気付いたのがきっかけ。そこで、救急救命士を務めた経験を生かし、誰もが適正な知識と技術を身に付けられるプログラムを作り上げた。救命処置法を習得する機会を提供し、一人でも多くの人への浸透を目指し、大切な命が救われる社会にしたいとの思いを強くしている。

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>羽生結弦さん アイショー八戸公演 羽生ファン全国から</p> <p>フィギュアスケート男子で、2014年ソチと18年平昌の両冬季五輪を連覇し、プロ転向した羽生結弦さん自らが総合演出を手がけた単独アイスショー「プロローグ」の八戸公演が、12月2日、3日、5日の3日間、八戸市のフラット八戸で開かれた。八戸はかつて震災の影響で地元を離れ、一時的に練習拠点としたゆかりの深い土地。公演で披露した「悲愴」は、同市のテクノルアイスパーク八戸で作り上げ、11から12年シーズンで使った曲で、どうしても滑りたいと演目に入れたものだった。ショーでは情感あふれる演技を披露し、会場につめかけた観客を魅了した。</p>
(17)	<p>呉さん（八戸出身）の「爆弾」2冠 ミステリー小説 2ランキング</p> <p>4月に刊行され、第167回直木賞にノミネートされた八戸市出身の作家、呉勝浩さん（大阪在住）の「爆弾」（講談社）が、ミステリー小説のランキング「このミステリーがすごい！」「ミステリーが読みたい」で、いずれも国内作品1位を獲得した。書評家らの投票で決まる毎年恒例のランキングで、宝島社の「このミステリーがすごい！2023年版」と早川書房の「ミステリマガジン2023年1月号」で発表された。呉さんの作品が1位を獲得するのは初めて。</p>
(18)	<p>令和4年度八戸市フィギュアスケート教室 小学生、滑りの基礎学</p> <p>八戸市が主催する小学生対象のフィギュアスケート教室が12月10日からフラット八戸で始まった。市がスケート競技人口の増加と競技力の向上を図るため実施している「氷都八戸パワーアッププロジェクト」の一環で、フィギュア教室の開催は2021年に続き、今回が2回目。市内外から参加した小学生約90人は難易度ごとに3クラスに別れ、青森県スケート連盟フィギュア委員会普及部のメンバーらの指導を受けながら、滑りの基本を学んだ。教室は25日までの毎週土、日曜、全6回開催された。</p>
(19)	<p>全日本IH 東北フリーブレイズ 5年ぶり頂点</p> <p>アイスホッケーの第90回全日本選手権は12月18日、長野市ビッグハットで決勝が行われ、東北フリーブレイズがPS戦の末、ひがし北海道クレインズを4-3で下し5年ぶり2度目の日本一に輝いた。決勝は、3大会連続の同カードで、ブレイズは過去2年ともにひがし北海道に敗れていた。ブレイズは序盤から、持ち前の運動量を生かした攻撃を展開。第1ピリオド（P）に3点を奪ったが、第2Pで同点に追いつかれ、延長でも決着が付かずPS戦に突入。最後は、主将の山本和樹がゴールを決め、優勝を果たした。</p>
(20)	<p>YSアリーナ八戸 全日本スピード開催</p> <p>スピードスケートの第90回全日本選手権が12月28～30日の3日間、YSアリーナ八戸で開催された。五輪メダリストの高木美帆（日体大職）や佐藤綾乃（ANA）、森重航（専大）ら国内トップ選手もエントリー。世界選手権（3月・オランダ）出場を目指して計10種目で熱戦を繰り広げた。同アリーナでの開催は2大会連続。開幕初日は、高木は女子1500メートルで自身が持つリンクレコード（RR）を1秒以上更新する1分54秒53で優勝。レース後にRRのアナウンスが流れると、会場は大きな拍手に包まれた。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

- ① 寄附金の使い道を指定できる**
震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。
- ② 税金が控除(還付)される**
控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)
- ③ お礼の品がもらえる**
八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。